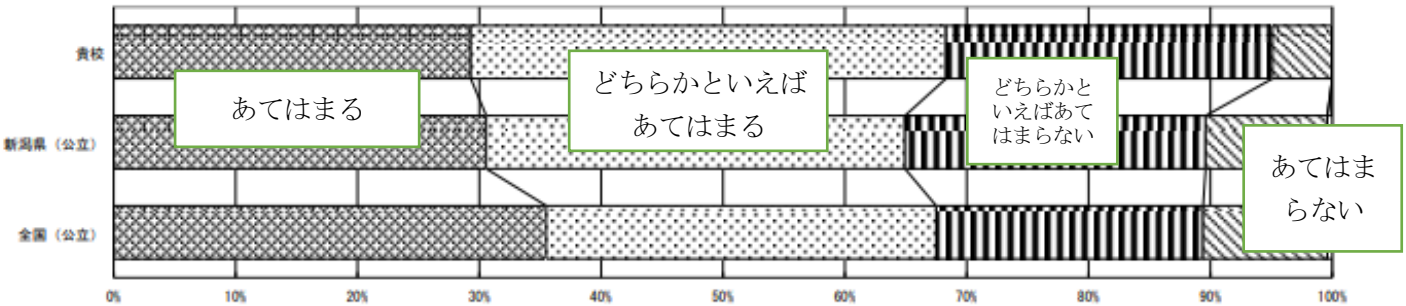
校長室だより

令和７年１０月１０日（金）
第　２４　号
十日町市立中条中学校校長室

キャリア教育

キャリア教育とは、「生徒が自分の将来の生き方や働き方について考え、主体的に進路を選択し、社会で自立して生きていく力を育む教育のこと」とされています。「キャリア教育が充実している学校は学習意欲が高い」という記事をよく目にします。根拠は、国立教育施策研究所のリーフレット「データが示すキャリア教育が促す『学習意欲』」でした。平成 26 年のリーフレットで少し古いですが、この内容を踏まえて、キャリア教育について考えます。

まずは当校生徒の様子です。全国学力・学習状況調査の質問、「将来の夢や目標を持っていますか」の結果です。



肯定的な評価は 68.3%で、ほぼ全国平均（67.5%）です。また、「あてはまらない」は昨年度の 15.2%から、4.9%になっています。３年生のここまでのキャリア教育の成果かなと思います。漠然としていたとしても、今年の生徒は将来について考えている生徒が多いようです。

なぜキャリア教育の充実が学習意欲の向上につながるか。リーフレットには「キャリア教育を通じて、児童生徒が学校での学習と自分の将来との関係に意義を見出し学ぶ意欲が掻き立てられること」と解説しています。

例えば将来、社長になりたいと思えば、会社経営をするための知識を得ることに関心が高まります。公民分野での法律や経済学、数学での証明など筋道を立てて考える論理的な力や計算力、データを読んで分析する力、商品や技術をアピールするための文章力や表現力、社内の人間関係や取引先とのコミュニケーション能力等々。その結びつきや関連を意識すれば、学習へのモチベーション（意欲）が高まるはずです。

逆に将来について何も考えてなければ、学習はその場だけのものなってしまいかねません。現時点で、「将来の道はこれ」と決める必要はないと考えます。いくつかの選択肢をもつことや、こんな生活をしてみたいというイメージでいいのではと思います。

学習指導要領では、キャリア教育は、「**生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていく**ことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」となっています。「夢や目標を持つこと」は「学ぶことと自己の将来のつながりを見通す」ことにつながります。そして、「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付ける」ことが大切です。さてここで言う「資質・能力とは」という話です。

学校で育むべき資質・能力とは「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」です。４つを簡単に説明すると

人間関係形成・社会形成能力	他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える能力 **→いろいろな人とうまくやっていく力**
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との関係を保ちながら、主体的に行動していく能力 **→自分を認め、自分の力を磨いていく力**
課題対応能力	仕事をする上で様々な課題を発見、分析し、適切な計画を立てて解決する能力。自分が行うべきことに意欲的に取り組み、従来の考え方や方法にとらわれずに、物事を進めていくために必要な力 **→課題を見付け、解決していく力**
キャリアプランニング能力	働くことの意義を理解し、自分が果たすべき役割をふまえ、「働くこと」を位置づける能力 **→どんなキャリアを歩むか決める力**

そこで、生成 AI に聞いてみると

時々お世話になっている M365Copilot で、「中学生の保護者向け、家庭でできるキャリア教育の具体例は」と検索した結果です。参考になればと思います。

中学生の保護者向け：家庭でできるキャリア教育の具体例

１．親子の対話を通じたキャリア意識の育成

○「将来どんなことをしてみたい？」と定期的に話す。
○親自身の仕事や働く理由、やりがいについて話す。
○ニュースや社会の話題をきっかけに「この仕事ってどんな役割があるんだろう？」と問いかける。

２．職業や進路に関する情報提供

○様々な職業の紹介動画や記事を一緒に見る。
○高校や専門学校、大学などの進路について情報を共有する。
○オープンキャンパスや職業体験イベントに親子で参加する。

３．家庭内での役割を通じた責任感の育成

○家事や買い物などを任せ、「働くこと＝誰かの役に立つこと」を体感させる。例えば「家族のために夕食を作る」「家計を考えて買い物をする」など。

４．金銭教育と仕事のつながりを理解させる

○おこづかいの管理を通じて「働いて得たお金の価値」を考えさせる。
○家計の話を共有し、「収入と支出」「仕事と生活」の関係を理解させる。

５．自己理解を深めるサポート

○得意なこと・好きなことを一緒に整理する（例：性格診断、興味関心マップなど）。
○学校での活動や部活動を振り返り、「どんな場面で力を発揮できたか」を話し合う。

６．社会との接点を増やす

○地域のボランティア活動や職場見学などに参加する。
○親の知人や友人の職業について話を聞く機会をつくる。（インフォーマルな職業インタビュー）

保護者が意識すべきポイント

押しつけないこと：子どもの興味や価値観を尊重する。
聞き役になること：子どもが自由に話せる雰囲気をつくる。
選択肢を広げること：一つの進路に固執せず、様々な可能性を見せる。